

生き方モデルを追究し、 自己の生き方を創り出す 道徳学習指導

福岡県前原市立波多江小学校

み や げ こ う い ち

三宅孝一

【実践の内容】

本研究のめざす意図は、現在の道徳教育に求められる内容をふまえて子供の求めから「生き方モデル」を教材化することで、自己の生き方を創り出す、いわゆる生き方を見つめ直し、子供のもつ道徳的实践力を大きく開花させることである。そして、1主題を問題解決的に複数時間で取り扱い、子供と生き方モデルが豊かな対話活動を続けていくことを主眼に置いている。また、本研究の具体的な手だてとして、家庭（保護者）との連携を重視した学習指導の構想がある。これは、子供が保護者と共に生き方を追究できる場を設定し、子供の道徳的实践力をより強化しようとするものである。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

新学習指導要領における道徳教育の改善の基本方針として、心に響く道徳教育の実施家庭や地域の人々の協力による道徳教育の充実 未来に向けて自ら課題に取り組み共に考える道徳教育の推進が挙げられている。つまり、これからの道徳教育では、道徳の時間を基盤に子供が心に響く対象との関わりを通して、自己の内面を見つめ、課題や悩みに主体的に取り組み、夢や希望をもって未来に向けて人生や社会を切り拓く道徳的实践力を育むことが求められている。なお、本研究では、上記の要請や本学級の子供の実態から述べている。

2 研究の仮説

子供が保護者と共に生き方を追究する問題解決的な道徳学習指導において、「生き方モデル」の教材化と道徳の時間における工夫を図り、保護者と共に生き方を追究する問題解決的学習の主題を効果的に構成すれば、道徳的心情・判断力・道徳的实践意欲、態度を包括する道徳的实践力を培い、自己の生き方を創り出す子供が育つであろう。

3 具体的方策と実践

(1) 第5学年主題「実現に向かって前進する心」

本事例では、前原市在住の山本秀一さんを生き方モデルに設定し、モデルの生き方を通して「より高い目標をもち、困難や逆境にくじけず粘り強くやり遂げようとする態度を育てる」ことを目標とした。山本さんの3回の来校で、子供も保護者も山本さんと豊かな対話活動を繰り広げることができたと言える。

(2) 第6学年主題「12才の地図」

本事例では、前原市在住の貞清智也さんを生き方モデルに設定し、モデルの生き方を通して「生命のかけがえのなさを自覚し、自分が生きていることそして自分の生命は家族や友達など多くの人々の支えや助け合いで成り立っているという感謝の気持ちを抱き、それに応えて生きていこうとする態度を育てる」ことを目標とした。昨年6月に行った事例ではあるが、貞清さんが子供たちに迫った問いかけは、現在もなお続いている。

4 研究のまとめと今後の課題

自己の生き方を創り出す道徳学習指導において、子供が求める課題に応じた価値に着目し、その価値に相応する生き方モデルを教材化することで道徳的实践力の伸長が見られた。また、保護者と共に追究する場を設定したことは、子供の道徳的实践力を強化することにつながり有効であった。課題としては、他主題における生き方モデルの教材化開発や子供と保護者の価値観、考えの交流の更なる深まらせ方等が挙げられる。